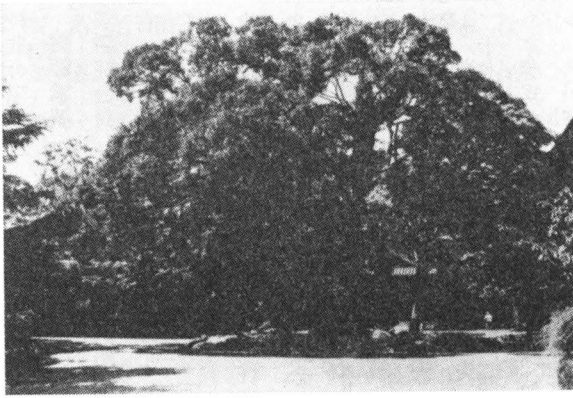


第七節 昭和二十七年

① 廃校・最後の卒業式

昭和二十七年三月二十九日の第六十二回卒業証書授与式を以て東京美術学校は廃止され、翌三十日、同様に東京音楽学校も廃止となった。これに際して簡略な記念誌(謄写版)が作られた。内容は東京美術学校沿革略、東京音楽学校沿革略、回想その他(上野直昭、松田義之、広川松五郎、八木梯二、下総皖一、宮城道雄、城多又兵



昭和10年12月第二类天然記念物に指定された椎
(三好学著『日本巨樹名木図説』より転載)

衛、大和田愛羅、神崎舜爾)、両校卒業式記事から成る。広川松五郎の詩と本校卒業式の記事の部分を転載する。

椎の樹

校庭にいまだ栄ゆる

としふりし椎の木の暈

雨ふれば容れ 日照れば我をかゝへき

そのかみの葉簇はむらのそよぎ

いまでも見る三五の学徒せがれかげに秘ひそまり

わか頭髪のしろきを言いて

えらぎ笑えど

なにかせむ あなあはれ

椎ならでこそ たれか知る

東京芸術大学東京美術学校卒業式

第六十二回の卒業者を最後とし三月二十九日午前十時より美術学部講堂において学長、学校長、各科教官、職員、卒業生及文部大臣代理を初め先輩等多数来賓出席のもとに盛大に挙行された。

式次第

一、学校長告辞

村田 良策

二、卒業証書授与

三、学長式辞

上野 直昭

四、文部大臣祝辞

大臣代理

五、卒業生答辞

卒業生総代

六、校歌合唱

回顧講演 (自午前十一時
於美術学部講堂)

日本芸術院会員 結城素明先生 (明治三〇、日本画卒)

同右 香取秀真先生 (〃〃 铸造卒)

同右 板谷波山先生 (〃二七、彫刻科卒)

東京美術学校同窓会

結成準備委員会 (自午後二時
於美術学部講堂)

卒業製作展 (自三月二十九日至三月三十一日
於美術学部)

東京美術学校回顧展 (自三月二十九日至三月三十一日
於陳列館)

② 卒業

昭和二十七年三月二十九日、第六十二回卒業証書授与式、即ち本校最後の卒業式が行われ、当時在籍者一六三名中一四二名が卒業し、二十一名が修了して在籍者〇名となった。なお、同月二十九日より同三十一日まで陳列館で卒業制作展が開催された。

卒業者

日本画科	山田 明代	大久保 信哉
長谷川 恵美子	松山 美知子	油画科
時本 和夫	小松 暢子	高橋 敏夫
蒿谷 昇	阿部 等	後藤 市三
田辺 芳子	澤 昌男	三栖 英二
野田 武	平山 郁夫	磯貝 嘉代子
矢崎 雄嗣	小泉 淳作	伊能 由利子

今井 章雄	水谷 元彦	斎藤 公平 (同)
石崎 寿美子	藤本 寅斗	岡 忠 (同)
富田 百秋	西村 八知	彫刻科木彫部
岡 定正	莊 多賀子	渡辺 利旭
渡辺 達也	宮川 孝	中島 一
片山 昭弘	森 真人	広岡 辰哉
彼末 宏	滝川 信	伊藤 礼太郎
柏村 勲	和田 武	戸津 侃
吉田 俊雄	金子 太郎	神谷 幸一
吉野 興博	和氣 史郎	久保寺 恭
高橋 政文	彫刻科塑造部	松尾 一英
武石 文樹	手島 脩	田谷 修一
中野 忠正	五十嵐 英代	工芸科圖案部
長野 千代子	大國 丈夫	武石 昌也
窪田 米喜	志賀 修一	五十嵐 豊
山岸 正巳	宮川 和博	大野 隆也
山宮 寿子	福原 肅雄	岡本 博治
遠藤 琢郎	高橋 清	奥野 玲子
寺門 昶	明珍 昭二	渡辺 和行
齋藤 淳	岡井 敏平 (石彫)	上村 経一
佐浦 富子	勝田 嘉夫 (同)	竹内 和夫
岸田 衿子	山口 信子 (同)	山崎 哲雄
箕原 正	保田 春彦 (同)	山崎 達雄
宮田 晨哉	前川 直 (同)	島貫 昭子